

3 出土遺物の成果

3-1 【本丸北堀土塁跡調査区】

本丸北土塁北東部には「瓦捨て場」がありました。瓦は極めて大量で鬼瓦や鯨瓦を含みます。軒丸瓦や軒平瓦は江戸時代半ばの瓦を主体として江戸時代前期の鳥居氏時代と思われるものから、秋元氏時代の赤瓦までをふくみますが、最上氏時代と水野氏時代と考えられる瓦は含まれません。

写真は堀田氏時代（1700～1746）の家紋鬼瓦です。二ノ丸土塁の隅櫓からも同様の黒瓦の鬼瓦が出土しており、同時期に葺き替えたものが、後の時代に廃棄されたものと考えられます。



堀田氏時代家紋黒鬼瓦（最大幅61.5cm）



瓦捨て場の断面と護岸石垣検出状況（北西から）

3-2 【二ノ丸旧市営球場跡地調査区】

令和6年度の調査区からは瓦が集中的に出土する地点が複数確認されました。上層には赤瓦が含まれる地点もあるため、江戸時代後期の廃棄痕跡と考えています。下層からは「山紋」軒丸瓦（破片）が1点出土しています。最上氏時代の瓦で金箔を貼らないタイプのものですが、本丸御殿跡からも数点出土しています。

令和4～5年度の調査区からも、戦国時代から江戸時代初頭の陶磁器が出土しており、最上氏時代の山形城にかかわる遺物です。



最上氏時代「山紋」軒丸瓦（金箔なし）



二ノ丸調査区トレンチ精査状況（東から）

編集後記

現地説明会開催に当たり関係各位に多大なご理解・ご協力を賜りましたこと誠に感謝申し上げます。なお、山形城跡の復原整備事業に係り関連する資料を探しています。お心当たりの方は下記までご連絡下さいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 山形市まちづくり政策部公園緑地課 Tel.023(641)1212代
【編集・発行】山形市文化スポーツ部 文化創造都市課 文化財係

史跡山形城跡(2024) 本丸北堀土塁跡発掘調査 二ノ丸旧市営球場跡地発掘調査 現地説明会資料

令和6年12月7日（土） 山形市 文化スポーツ部 文化創造都市課

調査要項

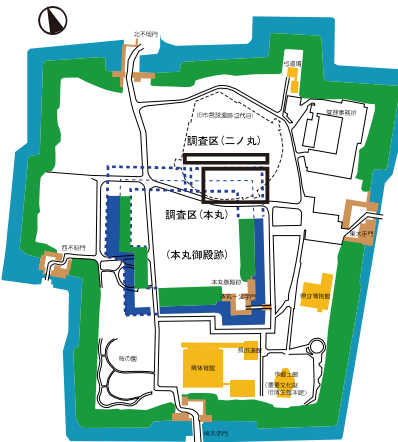
遺跡所在地	国指定史跡 山形城跡 山形市霞城町（霞城公園）
遺跡番号	1番（山形県遺跡地図）
調査期間	令和6年6月3日～12月27日（本丸北堀土塁跡） 令和6年5月23日～6月28日・11月12日～12月20日（二ノ丸旧市営球場跡地）
調査面積	本丸北堀土塁跡 約1,000㎡ 二ノ丸旧市営球場跡地 約500㎡
調査原因	史跡山形城跡（霞城公園）整備事業
遺跡種別	城郭（近世城郭）
時代	近世・近現代
遺構	堀跡・土塁下段石積遺構・護岸石垣など（本丸北堀土塁跡） 【最上氏時代】礎石建物跡・溝跡など 【江戸後期】暗渠跡・瓦廃棄跡など（二ノ丸）
遺物	瓦類・陶磁器碗皿類・土師質土器・金属製品・石製品・須恵器土師器 など
調査事業の主体	山形市まちづくり政策部公園緑地課 山形市文化スポーツ部文化創造都市課
調査実施の機関	山形市
調査担当	山形市文化スポーツ部 文化創造都市課

1 概要(史跡の立地及び周辺の環境)

山形城跡は、最上義光が整備したといわれる本丸・二ノ丸・三ノ丸からなる平城です。昭和61年に国史跡指定を受けて以来整備に取り組み、二ノ丸東大手門や本丸一文字門石垣などを復原し、新たなシンボルとなっています。

城跡の周囲は市街地となっており、その中心に位置します。市街北部を流れる馬見ヶ崎川による扇状地上に立地し、本丸一文字門付近で海拔約130mを測り湧水地帯に築かれた平城であったと考えられます。

令和元年度より本丸北堀跡の発掘調査を行い、鳥居氏時代以後の北堀・北門土橋等とともに、最上氏時代の堀土塁に係る遺構を発見してきました。また、令和4年度より二ノ丸旧市営球場跡地の発掘調査を行ってきました。市営球場により破壊された部分もありましたが、一部から山形城に係る遺構が発見されました。今回公開する調査成果は、山形城の新たな歴史を示す貴重な発見です。



第1図 山形城跡調査区位置図

歴代藩主年表

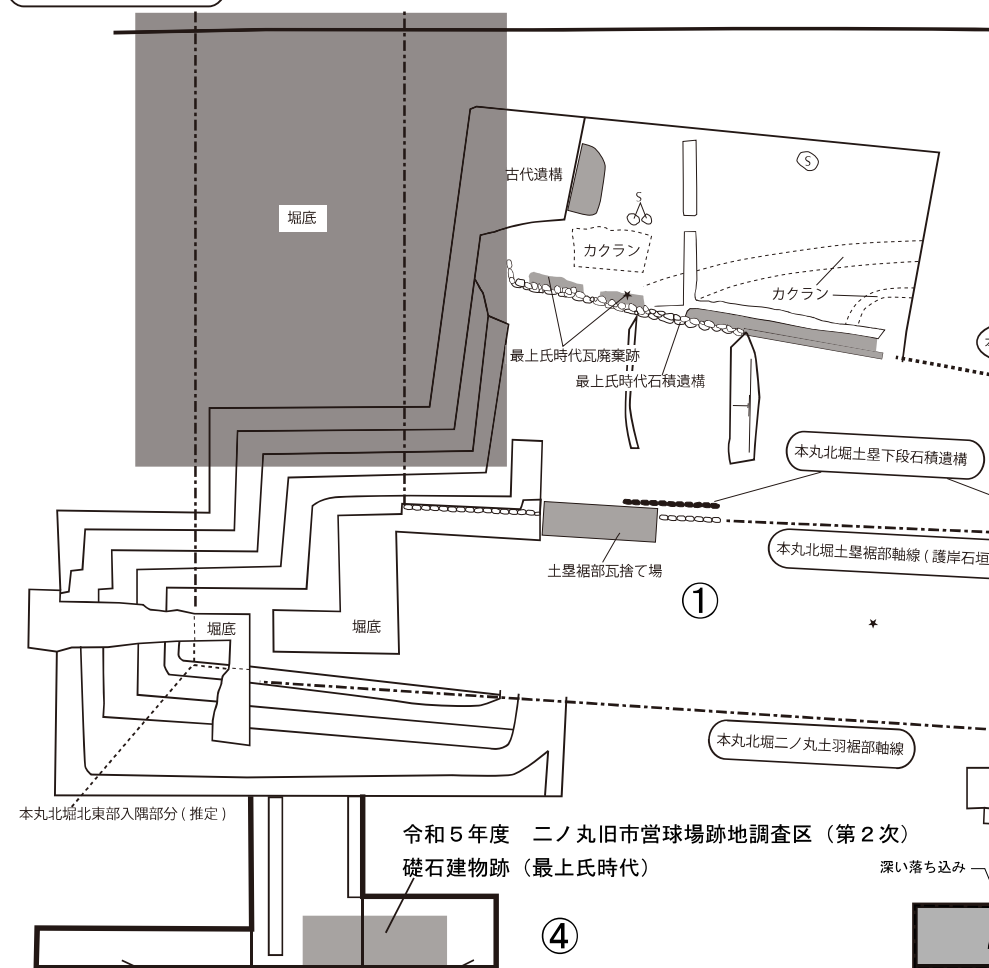
和暦	西暦	藩主	石高
延文元年 慶長五年	一三五六 一六〇〇	斯波兼頼 最上義光 最上家親	
元和八年	一六二二	最上家信（義俊） 鳥居忠政 鳥居忠恒	五十七万石 二十二万石
寛永十三年 寛永二十年	一六三六 一六四三	保科正之 幕府領	二十万石
正保元年 慶安元年	一六四四 一六四八	（結城）松平直基 （奥平）松平忠弘	十五万石 十五万石
寛文八年	一六八八	奥平昌能 奥平昌章	九万石
貞享二年 貞享三年	一六八五 一六八六	堀田正仲 （結城）松平直矩	一〇万石 一〇万石
元禄五年 元禄十三年	一六九二 一七〇〇	（奥平）松平忠雅 堀田正虎 堀田正春 堀田正亮	一〇万石 一〇万石 一〇万石
延享三年 明和元年 明和四年	一七四六 一七六四 一七八七	（大給）松平乗佑 幕府領 秋元涼朝 秋元永朝 秋元久朝 秋元忠朝	六万石 六万石 六万石
弘化二年 明治二年	一八四五 一八六九	水野忠精 水野忠弘	五万石

2 本丸北堀土塁跡及び二ノ丸跡発掘調査の成果

2-1 【本丸北ノ方櫓由来の瓦捨て場】

本丸北堀跡は令和元年の土橋跡検出に始まり、継続調査を実施してきました。令和6年度はこれまで検出してきた瓦捨て場の取り上げ確認作業と、最上氏時代の土塁中段石積遺構の出隅部分の確認調査を行いました。瓦は極めて大量に廃棄した痕跡ですが、黒い瓦と赤い瓦が4：1の比率で出土しました。黒鬼瓦では堀田氏時代（江戸中期）の家紋鬼瓦が出土しており、江戸後期の秋元氏時代以前には廃棄されたものと考えられます。

令和6年度 堀埋土掘削予定範囲



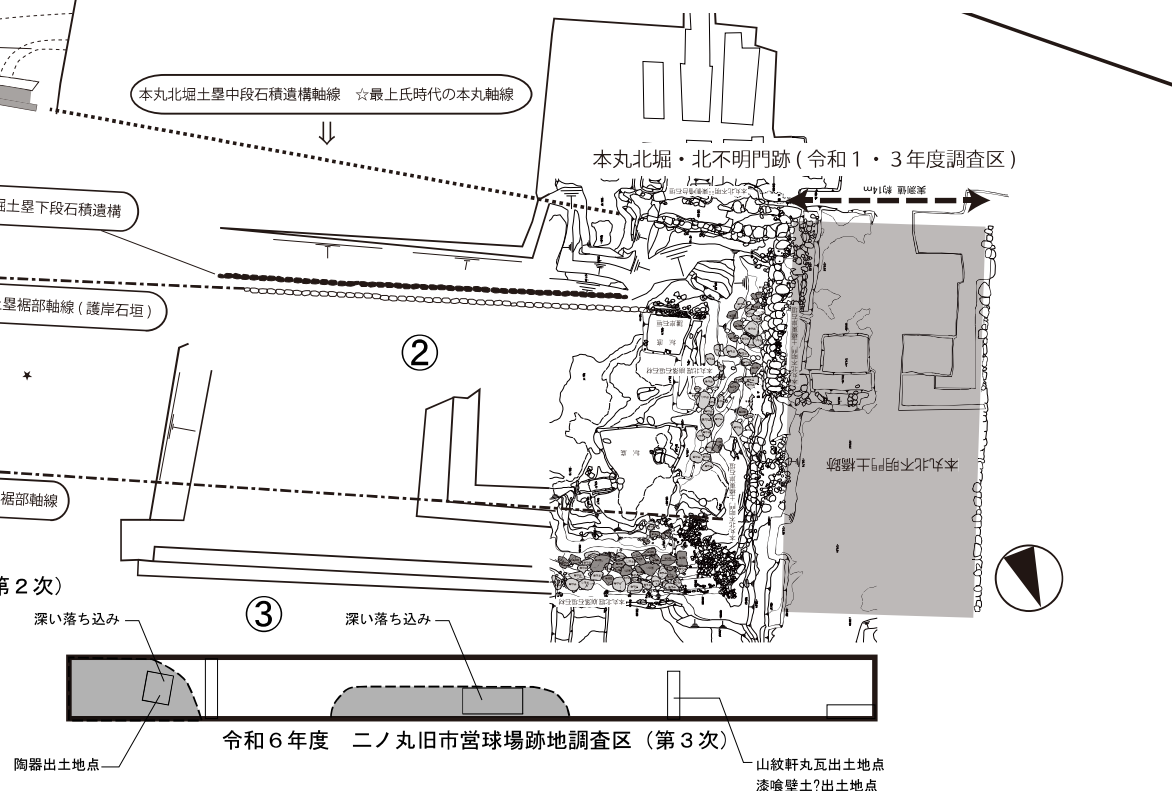
2-2 【本丸北土塁跡】～土塁下段石積遺構の構造と護岸石垣との関係～

令和5年度の発掘調査で本丸北土塁には土塁下段石積遺構と護岸石垣が平行して築かれていることがわかりました。令和6年度は両者をより広い範囲で検出するとともに、構造を確認するために一部背面調査を行いました。土塁下段石積遺構は、幅60cm以上の裏込めを伴い堅固なつくりでした。護岸石垣は一部に前後2段となる部分がありますが、ほぼ1段で高さ最大約1mありました。護岸石垣が砂で覆われたのちに土塁下段石積遺構が築かれています。土塁下段石積遺構は明確な時期がわかりませんが、江戸時代後半の補修石積みだった可能性が高いと思われます。

2-3 【二ノ丸旧市営球場跡地調査区】～地下遺構の所在確認と堆積層位の記録～

令和6年度の発掘調査は旧市営球場の西側敷地に東西トレンチを設定しておこないました。球場時代の盛土や解体工事後などの整地層を除去したのち、遺構の有無や地層の時期を検討しました。層位は二つに大別され、赤瓦など江戸後期の瓦を含む上層と、「山紋」軒丸瓦を含む最上氏時代の遺構・遺物を含んだ下層があります。上層面に遺構はなく本来の地表面はカクランで失われていました。

令和4年度の調査では礎石建物跡が1棟検出されたほか、令和5年度の調査で室町時代にさかのぼる陶磁器類が下層中より発見されています。旧市営球場跡地全体に遺構・遺物は残存しており、確実な遺構としては最上氏時代の礎石建物跡があり地表面も一部残っていることが明らかになりました。



※①～④は現地説明会での案内順位です。